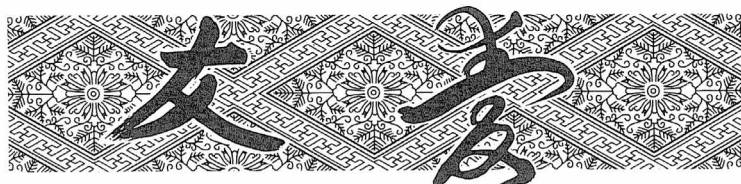


W



機関紙「友愛」

発行所

(財)日本友愛青年協会

〒113-0033 東京都

文京区本郷 4-25-9-404

TEL 03-5684-3188

FAX 03-5684-3186

発行人：川手正一郎

編集人：萩原直三

隔月一回 10日発行

講読料

年間 3,000円

印刷所：平野プリント

鳩山威一郎先生特集号

優しさを、公平無私の生き方に包んで

— 欲も裏表もなく、そして寛く温かく —

もし威一郎先生がご存命であれば、今日の政治の混乱、とりわけ経済・財政、金融の混乱はなかったのではないかと、とおっしゃる方は多い。それ以上に「国家のあり方、政治(家)のあり方に大きな影響を与えたのではないかと」おっしゃる方もいる。ポストなど決して求めることのなかった公平無私な生き方と、大局を誤らない透徹した世界観をお持ちであった先生は、その意味でも惜しみても余りある存在であった。お言葉の数は(正直申し上げて)きわめて少なかつたが、それだけにそこから伝わってくる温かい包容力が、ひたすら懐かしいのである。今でもふと、そこにおられるような気がしてならないが、この十二月十九日で先生が亡くなって五年目になる。今号は、先生への万感の思いを込めての特集号とした。

筋を通す人

威一郎先生のお人柄については、親友の相沢英之衆議院議員(元経済企画庁長官。ご夫人の司葉子氏の「思い出」は2面に)は、「亡くなられてからいよいよ懐かし」と、おっしゃりながら「柔和なお顔に似合わず、自分が納得しない限り自説を枉げないところもあった」と、先生の一面を語っている(「追想 鳩山威一郎」)。同時に、

に、誠実で温かく、そして優しい方であったとおっしゃる。それらが一体のものであったから、大きな人間的な魅力があったのである。

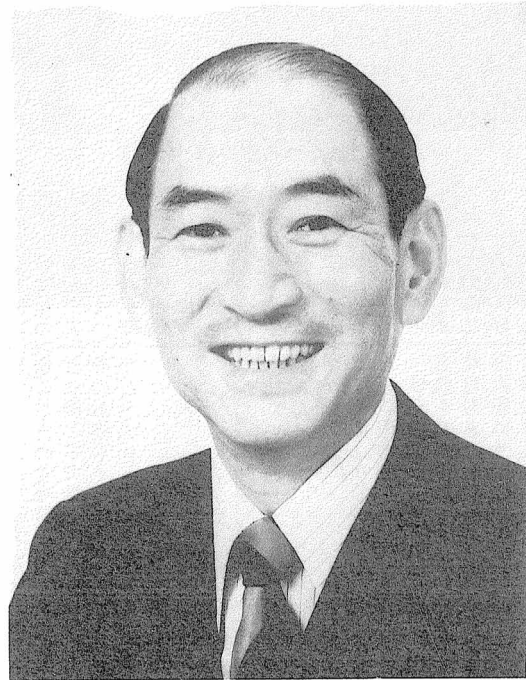
「デノミ」が持論

ところで先生といえば「デノミ」(貨幣の呼称単位の変更)が持論であったことはよく知られているが、政治家には絶対なるつもりはなかった(選挙に入ったら楽しそうだったという)が、ということも周知の事実である。

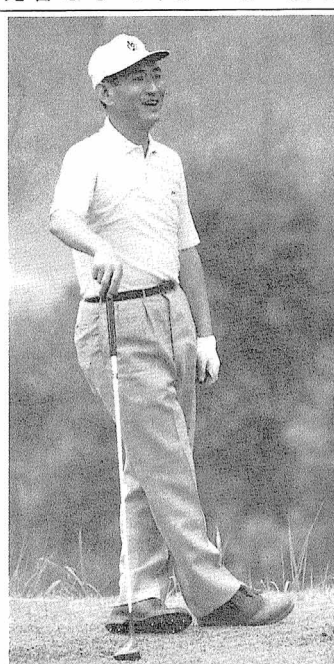
邦夫代議士は「おやじは、政治家、政治家がわからないけれども、基本的に信頼できないという思いがあったのかなあ」と述べた。ところが「政治家になる、とぼくが言ったとき、そういうくだらん職業を選ばない、なんでそんなくだらんことをするんだ」と言われたと語る(前掲「追想 鳩山威一郎」)。

由紀夫代議士も「私が(政治を)やりたいという意思表示をしたときには、おやじに、一家三人で政治なんて恥ずかしい仕事だから、おてんとさまに顔を向けて歩けないよ」と言われたという。

その先生が「参議院に出ようか」という話に乗ったのは、まったくデノミをやりたくて政治家になるなんて、動機としては考えられない。まさに、滅私奉公の精神。自分



分は戦争で死ななかつたので、死



ゴルフの腕前はシングル

「友愛の精神」で

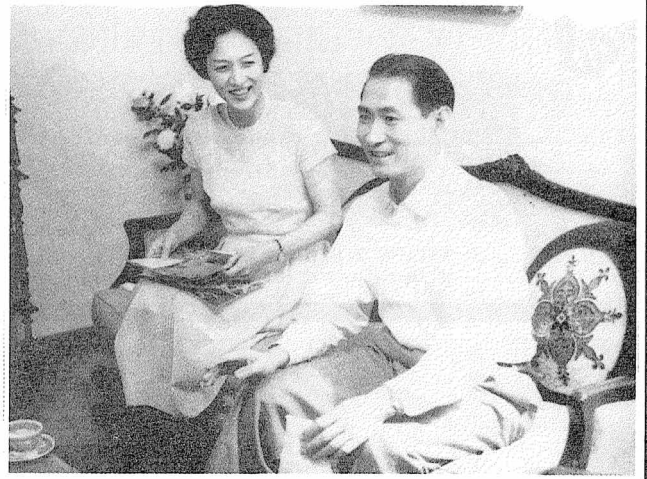
いづれにせよしかし、昭和四十九年の参議院全国区に初当選し、昭和五十一年から五十二年にかけては外務大臣(福田内閣)を務めるが、その時代には、日中、日韓、日ソ(ロシア)の関係改善と友好の促進、とりわけ日中平和友好条約の予備交渉、日韓大陸棚協定の発議した。その時の国会演説では「国際的諸問題を解決するために、各国が、相互の理解を深める

んだ仲間のために、自分も国家に尽くさなければならぬ」という気持ちがあったんだと思う」と邦夫代議士は語る。

その「友愛」は、直接的には昭和四十九年から逝去なさるまでご指導を仰いだ。OBの組織である「友愛クラブ」にもよく出席なさっていたが、青年の国際交流にも深い理解を示していただいた。特にアジア各国からの青年代表団には、ほとんどお会いした。たし、「友愛社会開発セミナー」などでは、各地の小さな集会でも青年たちと膝を交えて語り合っていた。川手正一郎鳩山会館館長は「先生は、鳩山の家風そのままに



国会で外務大臣演説



自宅できつろぐ夫妻

裏表がなく開放的で、誠実そのものでした」と語る。儲かるとか儲からないかということで、世の中を考えるべきでないという哲学を貫いた先生の高潔な精神を、こんな世相だからこそ我々はしっかりと受け止めていくべきだと思ふ。しかし、それを大切にしながらも、大好きなお酒が入る脱ぎネクタイをゆるめ、冗談も

「たぶんお父ちゃんも一番多く一緒にいたわね」という長女の子さんは、幼い頃「サンセット77」とか「ローハイ」などのアメリカのテレビ映画と一緒に見た思い出を懐かしむ。安子夫人は「鳩山威一郎という名前をお聞きになっただけで、どんな笑顔の思い出されるか」と思ふ。仕事は厳しく、でも普段はあの笑顔そのままでの優しい主人でした。出征の時、家族全員で武運長久の国旗と、私から主人宛に出しました手紙のほとんど

優しい笑顔

全部をやぶれたところは裏打ちでして、最後の一年半はパラオのジャングルの中の生活でございましたのに、大事に持ち歩き、持ち帰ってくれましたことを思い、涙と共に感謝の気持ち一杯になりました。全く言葉の少ない主人ではございましたが、その人生から言葉以上に学ぶものは多く、立派な一生だったと思います」と偲んでいる。

左から和子さん・邦夫さん・由紀夫さん
(小学生の頃の正月に)

静和

鳩山威一郎先生の思い出



司葉子

(衆議院議員、元経済企画庁長官・相沢英之氏夫人)

昭和四十九年七月の参議院選挙で鳩山様は見事当選。私の記憶では(自民党では)宮田輝議員が一位、二位鳩山先生だった事を大変くやしく思ったのを覚えています。当時主人は次官で、公務員は選挙運動をしてはならないとのことでしたので、退官したその日に岡山へ駆けつけ、鳩山様と合流、選挙運動に加わりました。時には私が主人の代わりに演説会場に出ることもあり、選挙というものを初めて経験いたしました。電信柱に「司葉子来たる!」の貼紙をされたり、選挙カーで手を振ったりの遊説はとても恥ずかしかったものでした。

鳩山様も照れくさそうで(演説

はあまりお得意でなかったようで)、こちらにもしばしばマイクがまわって来て戸惑ったものでした。でも、鳩山様のトットツと「本当に本当によろしく」とおっしゃる言葉がとても新鮮で、立て板に水の政治家の方よりずっと真実味と温もりが伝わってきました。そのせいか、支持者の幅が大きく広がって行くのを感じました。

選挙が終わってから主人に感想を聞かれ「二度とお断り」と話したことが、鳩山様に「ツーカー」と伝わって、妻などの入る余地のない「先輩・後輩の絆の強さ」に感心いたしました。その後、主人もまた同じ道を歩むことになったのは、鳩山様を鏡としての限りの



あの折の一言はとても重い意味があったのだと振り返って思いました。

こうして考えますと、印象深いことは次々と湧いてまいります。たとえば、大蔵次官でいらした時の「大阪万博」の開会式のお供。京都の大字焼きを見物し、大阪に入った日が「ニクソン・ショック」で、東京にとんぼ返りなされたこと、また、浅草の羽子板市やホオズキ市にも連れて行っていただいたことなど、数限りなくございます。入院中の鳩山様は、いつもゆったりと穏やかな顔でいらつしやいました。私もはいっぱい思い出をいただき、いつまでも鳩山様を忘れることはありません。今の日本の混迷を見るにつけ、鳩山様がお元氣ならばと、残念でなりません。脈々と続く政治家一家・鳩山家の生き証人として、安子夫人こそ、由紀夫先生・邦夫先生への良き助言者であり、理解者でいらつしやることと思います。

日本の将来を担ってお二方が御活躍なさることを、夢ふくませて期待いたしております。

鳩山威一郎前理事長が逝去され五年を迎えようとしています。穏やかな笑顔がこの上なく人を引き付け、人に温かく、誰からも尊敬される人柄でした。普段口数は少ないのですが、実に優しく「できる」とは何でもしてあげなさい」が信条であり、常にそれを実践しておられました。その不言実行が、人を引き付ける大きな魅力でした。同世代の方々が集まると、時に戦争中の苦労話が出てきました。食べるものが無く、動くものなら何でも口に入れた。生きて帰れたのが不思議で、生かされた自分の後半の人生は、国のために捧げようと思った、と何度か伺った。こんな優しい先生が一度怒ったことがありました。邦夫代議士の初陣の最終日に、当方の選挙事務所前を、相手方の政党宣伝カーが勝つ誇つたように挑発しました。先生は「汚いことをするな!」と叫び、先頭を切って相手方のクルマに向かって駆け出したので、その気迫に引き寄せられて事務所の若者も続きました。先生の迫力(実際にそのクルマの窓を叩いて怒った)に押され、その宣伝カーは、さすがとその場を去りました。心表は優しいが芯は強い。信念が強かったからこそ思いきったことができたのです。世慣れて擦れたところがなかっただけに、見ている人々をハラハラさせましたが、ご本人は当然のようでした。総理大臣をこなす器量を持ちながら、晩年、健康のすぐれなかった先生ですが、もし健康であったなら、時代が必ず先生を必要としたの思いが今でも強くします。

(長)

「社会福祉活動に献身」

友愛婦人会バザー

去る十月十日(体育の日)に、「教育の森公園フェスティバル・文京区民バザール」が開かれ、友愛婦人会もこれに参加した。当日は、鳩山会長もお見えになった。婦人会では、新品で良い品々を安く価格で提供したので、他の多くの店が苦戦する中で、午前中には早々と売り切れるという盛況ぶりであった。

思えばこの「友愛婦人会バザー」の歴史は古く、その第一回は、昭和三十八年十月十九、二十日の二日間におわたって「歳末助け合い・友愛バザー」(入場料二十円も歳末慰問に充てた)として大塚の桜蔭会館で開催されている。もちろん、それまでも「友愛婦人会の集い」を開きながら、その収益金を福祉団体などに寄贈してきたが、

「バザー」と銘打って行なったのはその時からである(機関紙『友愛』昭和三十八年十一月十日号)。それに続く第二回は、文京区役所別館に場所を移して開催された(昭和三十九年十一月十八、十九日)、初日には薫先生も洋傘をお買いになるなど、延べ五千人の来場者があったという(同・昭和三十九年十二月十日号)。

好評完売!

収益金の一部は、今回同様社会福祉団体に寄付されている。こうした献身的な社会福祉活動を実践し続けているところに、友愛婦人会の真の「友愛の精神」があると

友愛婦人会 軽井沢旅行

去る十月十七日(土)・十九日(月)の二泊三日で、恒例の友愛婦人会の旅行が総勢二十四名で行われた。宿舎である「友愛山荘」での夕食では、婦人会にふさわしい名酒「軽井沢美人」を召し上げる方もいた。婦人会の旅行というより、女子大生のゼミ旅行(?)といった雰囲気であった。

翌十八日は、白樺湖、夢科牧場、権現の湯などの観光で、楽しい二泊三日の旅を終えた。なお、去る九月二十六日(土)・二十七日(日)の女性センターまつりには、友愛婦人会も参加した。高齢化問題や、男女共同参画社会の実現などの課題に真剣に取り組んでいた。

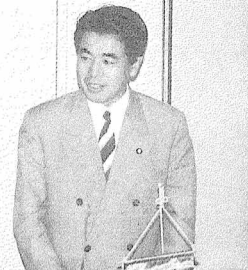


軽井沢美人の勢揃い

第346回友愛クラブ

下村博文先生

去る九月九日(水)に、自民党衆議院議員・下村博文先生をお招きして、第三四六回の友愛クラブの例会が開催された。「小学三年生の時にバイクの転倒事故で父親を亡くし、交通遺児となったことが政治家を志望する原点になった」という下村先生は、四十三歳の若



下村博文代議士

さをバネに「教育改革」「行財政改革」「政治改革」を掲げて現在

活躍中である。当日は、参議院の自民党敗北と、それに続く自民党総裁選を中心に述べながら、政治のあるべき姿について論じた。かつて学生のころには「友愛」の会員としてさまざまな活動もなされた、いわば同志でもある先生だけに、今後への期待が一段と高まった例会であった。

ダイオキシン問題を追究 小川勝也参議院議員



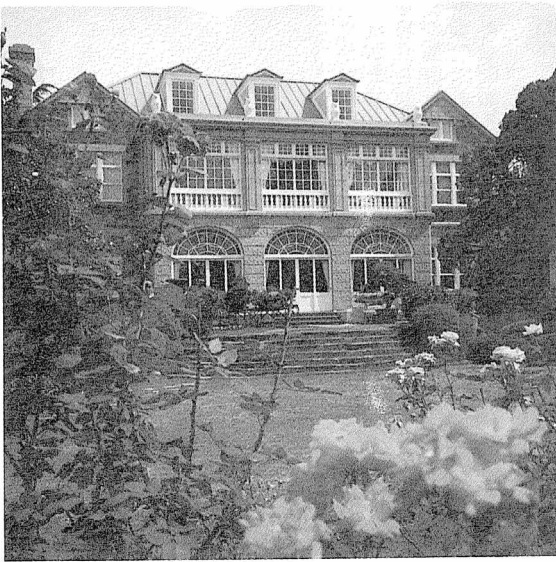
去る九月二十九日(火)に開かれた参議院の国土・環境委員会、小川勝也議員(本財団評議員)は、周辺土壌が高濃度ダイオキシンで汚染されていた大阪府能勢町のゴミ焼却炉(豊能郡美化センター)問題に触れ、この焼却炉と同型の施設が、松戸市など全国に六カ所あることを明らかにした。厚生省は、これがたまたまに豊能郡美化センター(後に廃止が決定)のような濃縮が起こる可能性は高いと言っているが(九、三十「朝日」)、今日の環境問題の深刻さを考えると、我々も自分の問題としてとらえていかねばならない課題である。小川議員には、引き続きこの問題についての「監視役」として、大いに期待したいものである。

賛助会員募集のお願い

「友愛」の活動・事業を支えてくださる賛助会員を募集いたしております。一口・一万円以上です。よろしくお願いいたします。

「郵便振替口座」
(財)日本友愛青年協会
00130012123095

鳩山会館の御案内



「鳩山家三代の歩み」展

12月1日~27日まで、鳩山和夫、春子・鳩山一郎、薫・鳩山威一郎と、「鳩山家三代の歩み」展を開催します。ぜひお越しください。

開館時間: 10:00~16:00/休館日: 月曜日
会館事務局: TEL 03-5976-2800
FAX 03-5976-1800
〒112-0013
東京都文京区音羽1-7-1

○入館料
大人 500円
学生(高校生、大学生など) 300円
小・中学生 200円
団体割引 20名以上入館料10%割引

○交通案内
地下鉄をご利用ください
●有楽町線 江戸川橋駅下車 徒歩7分
● " 護国寺駅下車 徒歩8分

友愛ドイツ歌曲コンクール

昨年の入賞者が今年九月に行なわれた「日本音楽コンクール」(NHK・毎日新聞社共催)に入賞するという朗報が入りました。今年も多数の応募者の中から厳しく選り抜かれた演奏者の美しい歌声を、ぜひお聞き下さい。

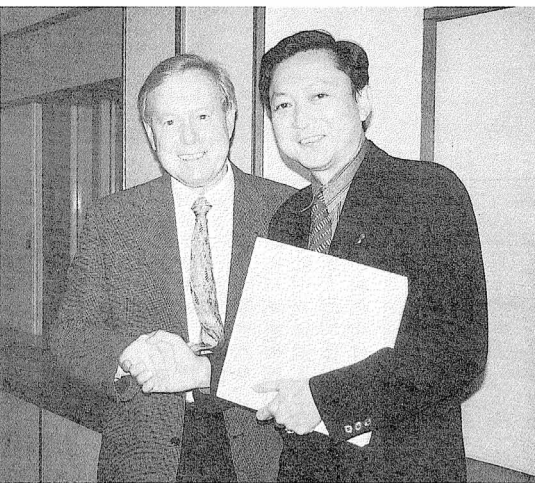
とき・平成10年11月20日(金) 16時開場、17時開演
ところ・「奏楽堂」台東区上野公園8-43
(JR上野駅「公園口」下車10分)
入場料・2000円(全席自由)

オーストリア勤労青年連盟元副会長 ヨン・フリッツ氏来日

— 鳩山由紀夫代議士歓迎の挨拶 —

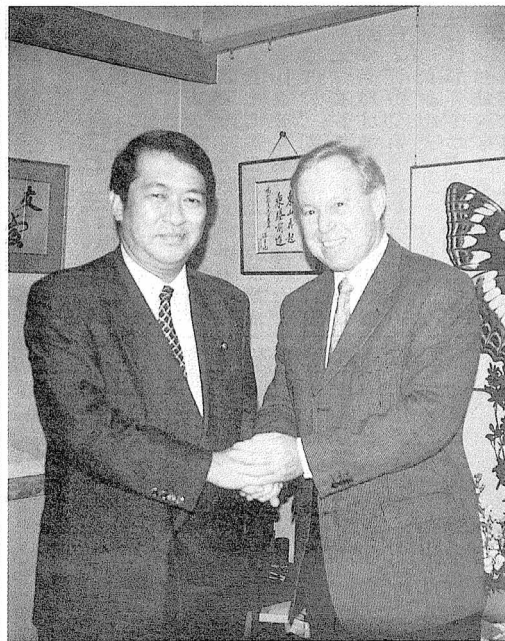
去る十一月四日(水)に、元オーストリア勤労青年連盟(OJAB)の副会長・ヨハン・フリッツ氏(現オーストリア共同通信理事)の歓迎夕食会が、キャピトル東急ホテル「こどぎの間」で開催された。この度の来日は、日本新聞協会や朝日新聞社の首脳との懇談が主たる日程であったが、森喜朗自民党幹事長、鳩山邦夫民主副代表、鳩山由紀夫民主幹事長代理並びに「友愛」の古い友人とはぜひ会いたいとの要望があった。フリッツ氏は、

「友愛青年連盟四十周年記念式典」にもお見えくださったことから、分かるように、クイデン・ホーフ・カレル・ギー伯が「橋渡し役」をしてくださったOJABの中心的な役割を果たしてこられた方である。歓迎の当日フリッツ氏は、その直前に森先生、鳩山邦夫代議士と個別に懇談され、夕食会に臨まれた。夕食会では、まず歓迎の挨拶が川手常務理事よりあり、鶴巻先生の乾杯が進められた。所用でやや遅れてお見えになったが、鳩山由紀夫代議士より改めて歓迎の挨拶があった。友愛の精神を共にする旧友への友情があふれていた。



「友愛」の固い握手

フリッツ氏は、中嶋夫妻、島崎先生、中川氏、田辺氏、森治彦氏、桜井氏はじめ懐かしい友人たちと懇談した。同じカレル・ギー伯の「友愛思想」で結ばれた「両国の友情の絆」を強く感じた夕べであった。



旧友との再会を喜ぶ両氏

去る十一月四日(水)午後五時より、鳩山邦夫民主副代表とフリッツ氏が懇談した(議員会館)。両氏は、クイデン・ホーフ・カレル・ギー伯の「友愛の精神」で結ばれたお互いの再会を喜んだ。席上、邦夫代議士は、「友愛四〇周年記念」のときのお礼を述べながら、オーストリアについての興味を語った。またフリッツ氏は、来年に予定しているジャーナリストの世界的大会の準備などについて述べた。

去る十月十四日(水)に、民主党企画委員長・仙谷由人先生をお迎えして第三四七回の「友愛クラブ」の例会が開催された(キャピトル東急)。

仙谷先生は、先の「金融国会」では、民主党の実質的な責任者として活躍された。先生は「国民との接点を重視して、透明な政治を創っていきたい」と語っておられるように、今度の金融危機に当たっても「パブの時に遊んで躍った人が得をして、その分国民の税金が投入される。こんなことだけは私の目の黒い中は絶対許さない」と普段の親しみやすい語り口でお話くださった。



仙谷由人代議士

■ 第347回友愛クラブ
民主党企画委員長 仙谷由人先生

情報を開示して、責任を明確にするという先生の姿勢に、会員も強い信頼と共感を覚えたようであった。なお今回は、井上和子氏(財団常務理事)がゲストとして参加してくださいました。

山中チヨさん、
青年海外協力隊員で
中米・ホンジュラスへ



去る十月三十日(金)から十一月一日(日)にかけて、総務庁と青少年育成会議の共催で「アジア太平洋青年フォーラム」が、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された。これは、中国、韓国、モンゴル、シンガポール、ラオス、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランド、パラオなど、アジア二十四カ国・百六十五名と日本青年五十名が寝食を共にして語り合い、相互の理解と友情を深めようとするものである。今年のテーマは「ともに創ろう 私たちの世紀」で、「友愛」からは、伊勢崎功国際課長がその実行委員長として参加した。合宿では、各国の青年たちが友情を深めたことはもちろんだが、世界の諸問題、特に二十一世紀のアジア太平洋地域の平和と繁栄に、青年がどういう役割を果たしていくのが真剣に討議された。

アジア太平洋青年フォーラム



アジアの友情が一つに

BREAKTHROUGH INNOVATORS

NISSEY
CORPORATION

ニッセー株式会社

本社：東京都千代田区外神田4-5-4 〒101-0021
TEL.03-3253-7581